

イベント開催報告

「農研機構発！西日本向け良食味水稻新品種お披露目会

～恋の予感・にこまる・きぬむすめ～ 開催報告

平成27年12月3日（木）に標記の水稲新品種お披露目会を近畿中国四国農業研究センターと共催で岡山国際交流センター（岡山市）において開催しました。近年、温暖化による米の品質低下が大きな問題となっており、農研機構ではこれに対応するため、高温に強い、あるいは高温期を回避する、良食味水稻品種を育成しています。この中で、西日本向けとして九州沖縄農業研究センター（以下、九州沖縄農研）からは「にこまる」「きぬむすめ」が、近畿中国四国農業研究センター（以下、近中四農研）からは「恋の予感」が育成されており、その普及をさらに進めることを目的として開催されました。なお、「きぬむすめ」は九州沖縄農研育成品種ですが、現在は主に近畿・中国地方の府県で奨励・認定品種（7県）や産地品種銘柄指定（4県）として採用され、作付面積（推定12,000ha）も全国15位（平成26年度）となっています。一方の「にこまる」も推定作付面積が11,000haとなっています。

お披露目会はアピールタイム（セミナー）＋テイスティングタイム（試食）＋クエスチョンタイム（個別相談）という3部構成で、参加者は生産者・農業団体、実需関係者、JA、都道府県関係者など多岐にわたり、予定していた100名を超える参加者がありました。また、岡山市での開催にもかかわらず熊本県人吉市から実需者の出席もありました。生産者・農業団体の参加は近隣の岡山県や広島県が多かったようです。報道関係者の出席も多く、岡山県内のTV関係各局が映像収録を行っていました。アピールタイムでは、①「『恋の予感』ほか近中四農研育成品種の紹介」（出田 首席研究員；近中四農研）、②「『にこまる』『きぬむすめ』ほか九州沖縄農研育成品種の紹介」（佐藤 首席研究員；九州沖縄農研）、③「各品種の特徴を考慮した品種選択の目安」（石井 首席研究員；作物研）の3講演を行いました。引き続きテイスティングタイム（試食）へ

移行し、九州沖縄農研と近中四農研は別々のブースにて当日炊飯した白飯で各々の品種の試食を行いました。同時に稲育種関係の研究者が品種特性や栽培法について説明し、参加者からの質問を受けました。九州沖縄農研のブースでは、2品種の育成にかかわった岡本所長や坂井農研機構本部統括コーディネーターにも説明や質問に対応していただきました。また、別のブースではキッズクッキングスクール.KH 主宰で料理研究家の栗元百恵さんによる、「恋の予感」、「にこまる」を使った米料理の試食とレシピの披露があり、「恋の予感」はちらし寿司、「にこまる」はライスコロッケとして披露されました。クエスチョンタイム（個別相談）では、地元生産者・農業団体から特に栽培面について多くの質問がありました。これは、新品種を導入した本年における刈取時期の遅延が影響しているようでした。

先に記載しましたように、「きぬむすめ」は九州沖縄農研育成品種ですが九州管内ではあまり栽培されていません。しかし、良食味品種として鳥根県や鳥取県で特Aを獲得するなど現在は主に近畿・中国地方の府県で栽培されています。温暖化の進行もあり、九州沖縄農研育成品種のあらたな普及の可能性が実感されました。 【研究調整役 菅谷 博】



アピールタイム（セミナー）での講演

九州沖縄農業研究センター
ニュース No.54
平成28年2月9日発行

編集・発行

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構
九州沖縄農業研究センター広報普及室
〒861-1192 熊本県合志市須屋2421
TEL.096-242-7780.7530 FAX.096-249-7543
公式ウェブサイト <http://www.naro.affrc.go.jp/karc/>